

えべつ 市議会だより

令和4年8月1日発行

No.150

発行 江別市議会
江別市高砂町6番地
電話(011)381-1051
編集 議会広報広聴委員会
印刷 江別印刷業協同組合

くらしサポートセンターえべつにインタビューしました



生活に関する困りごと全般について相談を受け付けている、「くらしサポートセンターえべつ」に相談支援の状況や、江別市議会に期待することを伺いました。インタビューの詳細は、特集ページを御覧ください。

主な内容

- ◇ 特集 インタビュー くらしサポートセンターえべつ×江別市議会 2～3
- ◇ 令和4年第2回定例会の概要 …… 4～5
- ◇ 一般質問 …… 6～11
- ◇ 委員会のページ …… 12

次期定例会の開催予定

- 第3回定例会
9月1日～9月28日
- 各委員会
9月2日～9月7日
9月15日～9月21日
- 一般質問
9月9日、12日、13日

※日程は予定です。
詳しくは議会事務局まで
お問い合わせください。

[議会ホームページ](http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/gikai/) <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/gikai/>

ホームページでは、議案等に対する各議員の賛否の状況や会議録(本会議・各委員会)など、議会の情報が御覧になれます。

また、江別市議会フェイスブックでも、議会の最新情報を発信しておりますので、こちらもぜひ御覧ください。



江別市議会
ホームページ

障がいのある方のための、点字とCDによる「えべつ市議会だより」もあります。

(詳細)障がい福祉課障がい福祉係 ☎(011)381-1031

巻頭インタビュー

くらしサポートセンター えべつ



江別市議会

今回は江別市社会福祉協議会の自立相談支援機関「くらしサポートセンターえべつ」で相談支援員として働いている本間さんに、コロナ禍における自立相談支援の現場の状況や、江別市議会に期待することを伺いました。



インタビューの様子(手前が本間さん)

必要な方に支援を届けるため、
くらしサポートセンターえべつをより多くの方に知ってほしいです

―長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に関する多くの困りごとが社会福祉協議会(以下「社協」という。)に寄せられていると思いますが、どのような状況ですか？

私は、社協に相談窓口がある自立相談支援機関くらしサポートセンターえべつ(以下「くらしサポ」とい

う。)の相談支援員です。くらしサポは、市の委託により平成27年度に開設し、生活に関する困りごと全般について相談を受け付けています。相談内容は経済的困窮だけに限らず、ひきこもりや家族との関係、就労など生活における心配ごとや不安であれば、どのようなことでもお受けしています。コロナ禍以前は、新規相談件数が350件程度でしたが、

令和2年度は、678件、令和3年度は609件と、大きく件数が増加しています。

―どのような相談内容が多いのでしょうか？

コロナ禍以前から、収入や生活費についての御相談が多かったです

が、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的な困窮に関する相談が急増しています。その他には、病気や健康、障がいの相談も多くあります。

(3)

事が長く続かないという相談であります。例えば、仕事が見つからない、仕事が長く続かないという相談であります。

—どのような支援が受けられるのでしょうか？



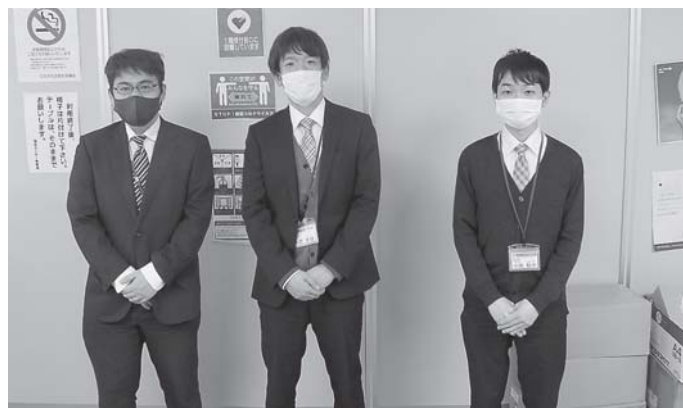
相談室(個室)での相談受付の様子

まずは相談者との面談等により、状況を確認します。相談される方は、御自身の本当の困りごとに気づいていないことも多いので、一緒に状況を整理し、様々な制度の活用なども含め、自立へのプランを立てます。

—江別市議会に期待することはありますか？

くらサポでは、支援を必要としている方に必要な支援をきちんと届けたいと思っています。そのためには、より多くの方にくらサポを知っていただきたいです。議員の方々は活動の中で、様々な相談を受けていると思います。あらゆる場面で、くらサポについてお知らせしていただけると嬉しいです。

また、くらサポでは、様々な悩みを抱えた方を支援しています。悩みごとの要因は、一つだけというケースは少なく、複雑な要因が絡み合っている場合がほとんどです。そのため、自立に向けた支援には非常に多くの時間が必要となります。単純な相談件数や、プランの作成件数だけでは、くらサポの頑張りが伝わりにくい部分も多いので、数値では表せないたくさんの方の支援の時間について、注目していただける仕組みがあると、励みになります。



暮らしサポートセンターえべつの皆さん
左から 有賀さん、本間さん、小南さん

暮らしに関する困りごと、ひとりで悩まずご相談ください

☎ 011-375-8987

相談受付日時 (土日祝 年末年始はお休み)
毎週月曜日～金曜日 8:45～17:15

暮らしサポートセンターえべつ

住所：江別市錦町14番地87 江別市総合社会福祉センター内

FAX：011-385-1236

E-mail：kurasapo@ebetsu-shyakyō.jp

江別市に居住している方ならどなたでも無料で相談いただけます

令和4年 第2回 定例会

第2回定例会は6月14日から6月28日まで15日間の会期で開かれました。市税条例等の一部改正をはじめ、一般会計補正予算などの議案12件、諮問3件、意見書案4件、陳情3件、報告11件を議了しました。

主な議案の内容についてお知らせします。

議決結果・賛否の状況については、江別市議会ホームページで公開しております。



条例

◎市税条例等の一部改正

地方税法等の一部改正に伴い、個人市民税、固定資産税について必要な改正を行うもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

主な改正の内容としては、個人市民税では、上場株式等の配当所得等に係る課税方式について、これまで所得税と個人市民税で異なる課税方式の選択が可能であったものを一致させるほか、住宅借入金等特別税額控除の適用期限を令和20年度分の個人市民税と居住年が令和7年であるものまで延長しようとするものです。

固定資産税では、下水道除害施設に係る課税標準の特例措置について、条例で定める割合を4分の3から5分の4に見直すほか、固定資産課税台帳の閲覧と証明書の交付におけるDV被害者等の記載住所を見直すものです。

一般議案

◎財産の取得

国のGIGAスクール構想に基づき、学校教育の情報化を推進するため、小・中学校教育用のタブレット等コンピュータ2千40台を1億5千999万5千円で購入するもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

◎新栄団地公営住宅建替F棟建築工事請負契約の締結

老朽化した新栄団地を建て替えるため、一般競争入札の結果、10億1千310万円で契約を締結するものです。

予定戸数は49戸で、工期は令和5年10月までとなっており、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

人事

◎人権擁護委員候補者の推薦

◇青山波留樹氏の推薦を可
と答申

◇大原永利子氏の推薦を可
と答申

◇杉本優子氏の推薦を可
と答申

◎教育委員会の教育長の任命

◇黒川淳司氏の再任に同意

◎教育委員会委員の任命

◇麓美絵氏の任命に同意

予算

◎一般会計補正予算(第1号)

新型コロナウイルス感染症の対策や国等の予算動向による変更等のほか、緊急を要するものへの措置として、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の申請期限延長に要する経費のほか、住民税非課税世帯等と低所得の子育て世帯の生活を支援するための経費や高齢者等に対する4回目ワクチン接種等に要する経費、大雪の重みにより陥没した旧町村農場牛舎屋根の復旧に要する経費の追加により、10億630万4千円を増額し、予算総額は、490億7千630万4千円にな

るもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

◎一般会計補正予算(第2号)

コロナ禍における原油価格・物価高騰への対策として、低所得の子育て世帯に対する生活支援特別給付金の上乗せに要する経費のほか、食料費等の高騰の影響を受けている放課後児童クラブや民間保育園・幼稚園等、江別市学校給食会に対する支援に要する経費や牛乳の消費喚起に向けた取組に要する経費、プレミアム付商品券の発行に要する経費の追加により、3億9千991万8千円を増額し、予算総額は494億7千622万2千円になるもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

陳情

■不採択となった陳情

◎江別市立病院の抜本的な経営改革について

江別市立病院の経営改革を考える市民懇話会

代表 谷本二郎氏

ほか5名

◎江別市議会から政府へ、妊婦・子ども・若年層への「新型コロナウイルススワクチン接種」について、より安全性が確立できるまで接種勧奨を見直すよう意見書の提出を求めることについて

河野彩子氏

◎江別市へ新型コロナウイルススワクチン接種後の健康状況調査を求めることについて

河野彩子氏

報告

◎江別振興公社、スポーツ振興財団、フラワーテクニカえべつの令和3年度決算に関する書類

市が出資している公社や財団、株式会社との令和3年度決算が報告されました。

そのほか本定例会に提出された議案

件名	議決結果
財産の取得(大型除雪グレーダの購入)	原案可決(全員一致)
財産の取得(消防ポンプ自動車の購入)	原案可決(全員一致)
環境クリーンセンター延命化工事請負契約の締結	原案可決(全員一致)
北海道市町村職員退職手当組合理約の一部変更	原案可決(全員一致)
北海道市町村総合事務組合理約の一部変更	原案可決(全員一致)
地方公共団体情報システムの標準化に関する意見書	原案可決(全員一致)
国民的行事における手話通訳等による情報保障を求める意見書	原案可決(全員一致)
積雪寒冷地における介護事業所への適切な評価を求める意見書	原案可決(全員一致)
食料自給率の向上を求める意見書	原案可決(全員一致)
専決処分につき承認を求めること(市税条例の一部改正)	承認
専決処分につき承認を求めること(都市計画税条例の一部改正)	承認
専決処分(交通事故に係る損害賠償額の決定)	報告済
一般会計予算繰越明許費の繰越報告	報告済
水道事業会計予算の繰越報告	報告済

議員が市政をただす

一般質問

今定例会では、10人の議員が一般質問を行いました。
誌面の都合上、各議員が行った質問の中から、1人2
項目を要約してお伝えいたします。

質問
席

▼運動を継続するための環境

質問 健康のため運動を続けたいと願う市民のために、その環境を充実すべきと考えるがいかがか。

答弁 市教委では、市内の体育館は、様々な利用形態があり、それぞれのバランスを考えた施設運営が必要であると考えている。

そのため、体育館で行われるスポーツ教室については、指定管理者が、限られたスペースや時間を有効に活用できるよう、アンケート調査や利用実態に基づき、毎年、見直しを行っている。継続して運動したいという声があることは、認識しており、多様なニーズに対して、より多くの方がスポーツを行えるよう、スポーツ教室も含め、体育館全体の運営方法について、指定管理者と協議を行っている。市教委としても、運動は、健康の維持に欠かせないものと認識しており、引き続き、指定管理者との連携の下、市民が生涯を通して、運動を続けていくための環境づくりに努めていきたい。

民主・市民の会
諏訪部 容子 議員

▼民生委員・児童委員の認知度の向上

質問 市民に対して、民生委員・児童委員を知ってもらう努力をすべきと考えるがいかがか。

答弁 民生委員・児童委員は令和4年12月に一斉改選を迎えることから、推薦の手続きを進めている。

民生委員・児童委員の認知度向上については、テレビコマーシャルのほか、国や道では、概要等をホームページで周知している。また、市においても、改選年4月には、自治会への候補者選考依頼の際に、チラシを同封しているほか、改選後の広報1月号で民生委員・児童委員の氏名をお知らせするなど、周知に努めている。

市民の皆様には民生委員・児童委員の役割や活動について知っていただくことは、地域福祉の向上のために重要であることから、自治会連絡協議会、各自治会及び民生委員児童委員連絡協議会から御意見を伺いながら、定期的な広報も含め、効果的な周知方法を検討していきたい。

▼水田活用の直接支払交付金の見直しへの対応

質問 水田活用の直接支払交付金の見直しは、様々な問題や懸念があり、市内農業への影響があると考えるが、どのような認識か。

答弁 国は、令和3年末に令和4年度の水田活用の直接支払交付金の予算案の中で、交付対象水田の取扱いに係る現行ルールの厳格化の方針を掲げ、今後5年間に一度も水稲作付が行われない農地を交付対象水田としないこと等を示した。

この見直しにより、主食用米を作付する生産者が増加し、米価の下落が生じるほか、復元田では窒素を過剰に吸収することとなり、結果として、米の品質低下を招くなど、様々な懸念があると伺っている。また、交付金を受けようとする農業者は、江別市地域農業再生協議会において申請を受け付けており、併せて影響の把握に努めているところである。

市では、引き続き、市内農業への影響等について関係機関とともに注視していきたい。

▼学校給食費の保護者負担軽減

質問 学校給食費の保護者負担の軽減について、検討すべきでは。

答弁 学校給食に係る経費の負担区分の原則は、学校給食法において、学校給食に従事する職員の人件費及び施設・設備の修繕費は設置者が負担し、それ以外の学校給食費は保護者が負担すると定められていることから、食材費は、従来どおり保護者が負担すべきものと考えている。保護者負担の軽減については、これまで、学校給食会では、食材価格の上昇に対して、調達方法の工夫や献立の変更などの対応により、保護者負担が増えないよう努めてきた。

しかしながら、昨今の食材費の急騰により、学校給食会の会計が逼迫しており、摂取基準に定められている栄養バランスを満たす給食の提供が難しくなることが懸念されることから、市教委では、その対応策について、検討している。

今後も、学校給食会と連携し、給食費を抑えるよう努めながら、安全で安心な給食を提供していきたい。

▼市立病院の地方公営企業法の全部適用への移行

質問 経営形態の移行による病院事業管理者設置という変化により、病院に関わる市民への影響について伺う。

答弁 地方公営企業法の全部適用の効果としては、病院事業管理者の下、診療体制が強化されることで、救急応需の充実や高度医療機器による検査・治療など、市民に求められる医療サービスの提供のほか、医療制度や医療環境の変化に、迅速かつ柔軟に対応することが可能となるものと考えている。

地方公営企業法の全部適用への移行に伴い、病院事業管理者の下、これまで以上に、院内のガバナンスを高めることにより、職員全体で経営再建に取り組み、市民にとって必要な医療を提供できるよう努めていきたい。

▼健診センターの運営

質問 健診センターを開設してからこれまでどのような宣伝を行い、どの程度の受診数があったのか、利用状況について伺う。

答弁 令和2年12月に健診センターを開設してから、広報えびつ、ホームページ、情報誌のほか、新聞にも協力いただきPRしてきた。また、健診センターで実施できる人間ドックや生活習慣病予防健診等を紹介するパンフレットを作成し、市内約900の事業所へ郵送するなど、新たな利用者の獲得に努めてきた。

その結果、センターの利用者数は令和2年度は月平均263人であったものが、令和3年度は月平均334人と約27%増加しており、コロナ禍ではあるが、こうした利用者数の推移には、PRに取り組んだことによる効果が現れているものと考えている。今後も様々な手法によりPRを行い、利用者数の増加を図っていきたい。

このほか、令和2年度診療報酬改定から現在までの取りこぼしのない診療報酬の獲得について、看護師の勤務形態変更に対する考え方について、病床利用率の向上について質問がありました。



日本共産党議員団
佐藤 美佐子 議員



自民クラブ
芳賀 理己 議員

一般質問

諏訪部 容子

佐藤 美佐子

芳賀 理己

石田 武史

裏 君子

鈴木 誠

猪股 美香

奥野 妙子

佐々木 聖子

干場 芳子



えべつ地域創生の会
石田 武史 議員

▼遊水地の今後の利活用

質問 遊水地の利活用について、どのような考えか。

答弁 江別太遊水地利活用基本計画に基づき、市民が多目的に利用するゾーン、農業振興に利活用するゾーン、自然環境を生かすゾーンに区分けし、利活用に向け、国、市の関係各課、地元農家、民間事業者と協議、調整を行ってきている。

現在、自然環境を生かすゾーンで、国が堤防整備などの土取り場として使用していることから、利活用に後れが生じているほか、今後、農業振興に利活用するゾーンにも、土取り場を拡張する可能性があると伺っていることから、その場合には、さらに後れが生じるものと考えている。なお、農業振興に利活用するゾーンにおいては、絶滅危惧種に指定されているチュウヒの営巣により、立入りが規制されており、今後も営巣の可能性があると考えられる。今後は、遊水地の状況を踏まえた計画の見直しの検討について、管理者である国と協議、調整していきたい。

▼今後の国際交流の考え方

質問 これからの市における国際交流について、どのような姿を想定しているのか。

答弁 これまで、市内在住外国人からの問合せについては、主に国際交流員が随時対応してきたが、昨今、市内在住外国人の多言語化が進んでおり、英語以外の対応については、道が開設している北海道外国人相談センターを紹介しているほか、江別国際センターを通じて、通訳の紹介やAI翻訳機の活用などを行っている。また、江別国際センターでは、にほんご教室を開設し、日本語習得を支援しているほか、国籍別のコミュニケーション支援などを実施する札幌国際プラザを案内するなど、日常生活に慣れていただけるよう取組を進めてきた。

市教委は、今後も増加が見込まれる市内在住外国人の実態とニーズの把握に努めるとともに、江別国際センターと協力・連携し、国際理解の向上と合わせて、外国人にとっても住みよいまちとなるよう、相談体制や支援体制の充実に努めていきたい。



公明党
裏 君子 議員

▼健幸都市のまちづくり

質問 健幸のまちづくりを目指すスマートウエルネスシティの発想を取り入れたまちづくりについて、市長の見解を伺う。

答弁 少子高齢化・人口減少が急速に進む中、高齢になっても地域で元気に暮らせる社会、いつまでも健康で幸せでいられるまちづくりを目指す、スマートウエルネスシティの発想は、持続可能な新しい都市モデルを構築する大きな要素であると認識している。

共生のまちづくりを実現するためには、必要な方へ必要な医療の提供を基本とした医療の適正化、自治体財政力に応じた福祉政策の推進、人を幸せにする産業や、暮らしやすく、住み続けたいと思える環境の整備が必要であると考えていることから、市で、今後においても、スマートウエルネスシティの発想を含め、未来型政策協議会との連携や庁内検討会議における議論も踏まえながら、対応を検討していきたい。

▼江別古墳群の学校教育や社会教育での活用

質問 江別古墳群について社会科の副読本に、掲載する必要があると思うがいかがか。

答弁 古墳時代を含む、日本の歴史を学ぶのは、小学校6年生であることから、現行の小学校3・4年生用の社会科副読本に江別古墳群については掲載していなかったところである。

市教委では、小学校の早い段階から、ふるさとの歴史や文化財を身近に感じ、学ぶことは必要なことと認識しており、江別古墳群の社会科副読本への掲載については、市内教員で構成する編集委員会において、次回改訂に向け、学年ごとの学習内容との調整を含め、検討いただけるよう、働き掛けていきたい。

▼市立病院の経営再建

質問 資本金の減資による累積欠損金の処理について、市長はどのような方針をお持ちか。

答弁 令和2年度決算においては、各年度の純損失が積み重なった累積欠損金は約119億円、企業債償還に充当された、一般会計からの繰出金である資本金は約104億円となっており、累積欠損金と資本金の双方が過大で、財務実態と大きく乖離している状況から、その是正を図ることが、長年の課題となっていた。

減資による累積欠損金の解消は、経営実態に影響を及ぼすものではないが、地方公営企業法改正の趣旨に照らし、経営評価委員会の御意見を踏まえた上で、解消すべき累積欠損金の額を明確にするため、減資の活用について検討している。

減資の手続は議会の議決を要するものであり、経営の基礎に関わる問題であることから、議案として提案する際には早い段階で報告し、減資の趣旨とともに、市立病院の経営再建の見通しなどについて丁寧に説明を行っていききたい。

▼未利用・未活用の市有財産

質問 未利用・未活用の市有地はどの程度あり、評定額の合計と実際に売却する場合の想定額は、どのくらいか。

答弁 市有地は、市民全体の貴重な財産であり、行政サービスの提供や将来のまちづくりに向けて、有効に活用していく必要があると認識している。

その上で、未利用・未活用の市有財産については、江別市公有地活用基本方針に基づき、維持管理コストの縮減に努めるとともに、公有地から得られる利益を最大限、市民に還元していけるよう、その有効な利活用について協議を行っている。

令和4年度の当初における未利用・未活用市有地は、筆数にして52筆、評定額は約36億円となっている。

なお、売却想定額については、実際売却する際に、不動産鑑定士による鑑定を基に算定を行うため、現時点で全体の売却想定額を示すことは難しいが、近年の地価の傾向から、評定額を一定程度上回るものと想定している。



えべつ地域創生の会
鈴木 誠 議員

▼個別対応の必要な児童生徒の学習支援

質問 個別対応の必要な児童生徒の学習支援について、どのように取り組まれているか。また、どのような課題があると感じているか。

答弁 児童生徒の確かな学力の定着には、特性等を理解し、個々に応じた指導を行う必要がある。

こうしたことから、学習の狙いを踏まえた上で、児童生徒の発達の段階や学習の実態などに配慮しながら、一斉指導に加え、複数の教員によるティーム・ティーチングや別室での個別指導などの指導体制を柔軟に取り入れた授業にも取り組んでいる。

具体的には、理解状況に応じた、きめ細かな指導を支援するため、学習サポート教員を全ての小中学校へ派遣し、一斉指導の中で児童生徒に寄り添い、個別指導を行っている。

一方、課題については、現行の教員定数配置では、個別の指導に対応する十分な体制を組むのが難しいと考えており、市教委では、ICTを活用するなど、工夫して学力の向上に努めていきたい。

▼ICTツールの有効活用

質問 全体学習になじまない子供たちも含めて、ICTツールを有効活用することについての見解は。

答弁 令和3年6月から、タブレット端末を活用した、GIGAスクール構想の本格運用が開始され、登校が困難な児童生徒に対するオンライン授業や課題の配信なども増え、各学校での活用が進んできている。

令和4年10月からは、日常的なタブレット端末の持ち帰りを開始する予定としており、一斉学習になじめない児童生徒の家庭での学習においても、デジタル教材ならではの個別学習に適した機能を活用し、これまで以上に意欲的に学習に向き合えるよう取組を進めていきたい。

市教委は、ICTが一斉学習、個別学習の双方に活用されることで、児童生徒の学習が充実するよう、引き続き、教員への研修の実施やGIGAスクールポータルによる授業での効果的な活用例の提供などを通じて、学校への支援を進めていきたい。

このほか、ご家庭庁設置について質問がありました。



えべつ地域創生の会
猪股 美香 議員

一般質問

諏訪部 容子

佐藤 美佐子

芳賀 理己

石田 武史

裏 君子

鈴木 誠

猪股 美香

奥野 妙子

佐々木 聖子

干場 芳子



公明党
奥野 妙子 議員

▼まちづくりの一環としての道路整備

質問 JR北海道との協議の際には、白樺通りと9丁目通りを結ぶ道路整備について将来のまちづくりの視点で、より積極的に強く働きかけが必要であるが、市の考えは。

答弁 白樺通りと9丁目通りを結ぶ道路整備については、当該地域に行き止まり道路との接続が可能になることから、地域の防災機能の向上に寄与するものと認識している。市では、安全安心な市街地形成に向けたまちづくりは重要であると考えていることから、今後、JR北海道に対し、当該道路の整備について、働きかけていきたい。

▼書かない窓口の導入

質問 書かない窓口の導入について、今から検討が必要であると考えるが、見解を伺う。

答弁 書かない窓口は、市民が各種の申請や証明書の発行を希望する際に、身分証を示して口頭で必要事項を伝えると、職員が代わりに申請書にデータ入力し、その内容を確認して署名すると手続が完了する仕組みとなっており、市民の負担軽減につながっている。また、職員も関連する業務の案内漏れを防げるなどのメリットがあると聞いている。一方、システムの導入には、導入経費やスペースなどが課題となることから、それらを考慮した上で、導入可能性を見極める必要がある。令和4年度に策定する市庁舎の基本構想では、新庁舎が備えるべき機能の概要をまとめることから、どういった窓口機能が望ましいか、本庁舎建設基本構想検討委員会の御意見や他市などを参考に、より市民の利便性の向上が図られるよう、検討していきたい。

このほか、低出生体重児向けリトルベビーハン
ドブックについて質問がありました。



民主・市民の会
佐々木 聖子 議員

▼江別市医療介護連携推進協議会の推進と課題

質問 江別市医療介護連携推進協議会のコロナ禍における取組状況と、新たな課題について伺う。

答弁 市は、地域包括ケアシステムの推進を図るため、平成28年に地域の医療、介護及び福祉関係者による江別市医療介護連携推進協議会を設置し、医療と介護の連携やその課題解決に向けた協議を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での活動が大きく制限されたが、これまで協議会において積み上げてきた、医療と介護の連携についての理解が深まってきたことに加え、医療機関や介護事業所の皆様の御努力により、このたびのコロナ禍において、大きな問題は発生しなかったと伺っている。今後においては、このたびのような対面が難しい状況下での情報共有の方法や、各事業者等が把握した課題等について、協議会において情報を共有し、医療と介護の相互連携のさらなる強化を図っていき

▼地域包括ケアシステムの推進の取組

質問 地域包括ケアシステム推進に関する条例の制定に向けた取組が必要と考えるがどうか。

答弁 現在、市では、地域包括ケアシステムの推進を図るため、江別市高齢者総合計画において、基本理念、基本目標などを定め、医療介護等連携の推進のみならず、住民相互の支え合い活動の支援や住民意識の向上などに努めている。

地域包括ケアシステム推進に関する条例は、義務を課す条例の制定に当たするため、慎重な検討が必要となることから、他自治体の今後の動向を注視していきたいと考えている。地域包括ケアシステムの推進に当たっては、3年ごとに策定する江別市高齢者総合計画において、取組事業を定め、その評価、見直しを行いながら、地域包括ケアシステムの着実な推進を図っていきたい。

▼公共施設への携帯電話基地局の設置

質問 公共施設への携帯電話基地局の設置については、市民への説明を行うという理解でよろしいか。

答弁 公共施設への設置については、行政財産の目的外使用の要件として、施設利用者の利便性向上など、行政上適当と認められる場合に、その施設の用途及び目的を妨げないかなどを個別に確認した上で許可を行うこととなる。

その際には、公共施設以外の場合と同様に、事業者に対し、自治会や近隣住民への説明を要請することとしている。

▼事業者からの携帯電話基地局設置についての事前説明

質問 携帯電話基地局の設置に際し、事業者からは、チラシを配布するなど事前説明を行っているが、これまでの自治会や住民に対して、どのような説明や説明会を行ったのか状況や実態について伺う。

答弁 事業者の説明の実態把握については、近隣住民への説明の範囲や内容の把握に努めており、具体的には、実際に住民に配布した資料の提供を求めているほか、説明の時期や基地局の仕様及び通信規格などについて、担当者に直接聞き取りを行っている。

基地局の設置について、事業者から市へ報告する法的義務はないため、全てを把握することは困難であるが、今後も、実態の把握に努めながら、事業者へ要請していることについて、市のホームページ等を通じ分かりやすく周知するよう工夫していきたい。



民主・市民の会
干場 芳子 議員

一般質問

諏訪部 容子

佐藤 美佐子

芳賀 理己

石田 武史

裏 君子

鈴木 誠

猪股 美香

奥野 妙子

佐々木 聖子

干場 芳子

市民と議会の集い開催のお知らせ

ワークショップ「雪対策について」 ～大雪で困ったこと、感じたこと～

11 月 4 日 (金)

市民会館(37号室)18:15～20:30

11 月 6 日 (日)

大麻公民館(研修室2号)13:30～15:45

※ 詳細につきましては、自治会回覧や議会ホームページなどでお知らせいたします。



▶ 議会運営委員会

議会と議員の災害時における行動指針となる「江別市議会業務継続計画(江別市議会BCP)」についての協議がまとまり、計画を策定しました。迅速な災害対応に当たるための江別市議会災害対策会議の設置基準や災害時の議員への安否確認方法など、災害時に必要となる組織体制や行動基準を定めています。今後、本計画に基づいた防災訓練などを実施していく予定です。

また、2年に一度行っている先進都市議会運営調査については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止することを決定しました。

▶ 総務文教常任委員会

4月22日開催の委員会では4月1日付け人事異動の報告のほか、指定金融機関が運営する江別市役所内派出所が本年9月末で廃止となるため、今後は市の会計課が収納業務等を行うとの報告を受けました。

また、6月1日開催の委員会では教育部から、GIGAスクール構想推進事業の進捗状況、旧町村農場保存活用推進事業、令和5年度全国高等学校総合体育大会江別市実行委員会の設立、企画政策部から第7次江別市総合計画策定に係る取組状況と今後のスケジュール、総務部から本庁舎建設に係る基本構想の報告を受けたほか、第2回定例会予定案件の説明を受けました。

▶ 生活福祉常任委員会

当委員会に付託された陳情3件のうち、江別市立病院の経営改善に係る陳情には、陳情者の意見陳述を受けました。また、新型コロナ

ウイルスワクチン接種に係る陳情2件については、健康福祉部からの説明を受けるなどした後、それぞれ審査した結果、いずれも多数で不採択とすべきものと決しました。

生活環境部からは、環境クリーンセンター延命化工事請負契約の締結などについて、消防本部からは、老朽化した消防ポンプ自動車の更新などについて、市立病院からは、令和3年度病院事業経営状況、江別市立病院経営評価委員会などについて説明を受けました。引き続き、経過を注視していきます。

▶ 経済建設常任委員会

6月16日開催の委員会では、前号の市議会だよりでお知らせした令和3年度の除排雪事業について、除排雪の出動の判断や路線の優先順位、通学路の安全確保、雪堆積場の管理・運営、市民への情報提供や市民からの問合せへの対応、庁内の連携等、多岐にわたる項目についての報告を求め、質疑を交わしました。今回の議論がどのように反映されるか、今後も引き続き注視していきます。

また、6月2日開催の委員会では、江別市パートナーシップ宣誓制度の開始に伴い、市営住宅入居に係る要綱が制定されたことについて報告を受け、質疑を交わしました。

▶ 議会広報広聴委員会

これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年及び3年は、「市民と議会の集い」を開催することができず、市民の皆様と議員が双方向で交流する機会を設けることができませんでした。

今年は、参加者の皆様が気軽に意見を出しやすい場とするため、ワークショップ形式とし、11月4日(金)と11月6日(日)の2日間で感染症対策を行った上で、開催することにいたしました。

詳細につきましては、自治会回覧や議会ホームページなどでお知らせいたします。

皆様のご参加をお待ちしております。